

港内放送による環境美化への取り組み

能生町漁業協同組合青年部
児島 信博

1. 地域の概要

私たちの住む能生町は新潟県の西端部に位置し、海・山など美しい自然が豊かで、四季の変化が明瞭な人口1万人の町である(図1)。国道8号線沿いにある道の駅「マリンドリーム能生」には、物産センター等の他に町の特産であるベニズワイガニの直売場「カニヤ横町」があり、常時700パイものカニを販売することから日本一のカニ直売場となっている。また、町内には県内唯一の水産高校である「新潟県立海洋高等学校」があり、退役した実習船「越山丸」が海の資料館として「マリンドリーム能生」で展示されている。

2. 漁業の概要

能生町には2つの漁協、3つの漁港があり、私たちの所属する能生町漁協には能生漁港、鬼舞漁港がある。新潟県には第3種漁港が2港あり、そのうちの1つが能生漁港である。能生町漁協の正組合員は81名、准組合員は131名であり、漁船隻数は107隻である。主な漁業種類はベニズワイガニ籠漁業、小型機船底曳網漁業、パイ籠漁業、刺網漁業であり、平成14年度の総漁獲金額は8億3千万円となっている(図2)。

3. 青年部組織と運営

能生町漁業協同組合青年部(以下、青年部と略す。)は、漁協に所属する45才以下の漁業者で構成されており部員数は現在20名、平均年齢は31才(H15.9.30現在)となっている。年間の主な活動行事は「少年少女OH!さかな教室」の実施、「港まつり」の運営、農業者との交流、地元の学校行事(総合学習など)への協力等となっており、青年部は主な事業別の7委員で組織されている(図3)。これら地域活動は後継者育成にもつながることから、平成13年度「ふるさとづくり賞(主催(財)あしたの日本を創る協会)」で内閣官房長官賞を受賞し部員一同の大きな励みとなっている。運営経費は漁協等からの助成金のほか、青年部独自の活動として長野県での鮮魚直売を行うことにより捻出している。

4. 実践活動課題選定の動機

能生町は観光スポットが数多くあるため、県内外から多くの人々が訪れ、それと関連してか、天気の良い休日ともなると、能生漁港には釣竿を手にした家族連れなどが岸壁にずらりと並んでいる様子がよく見られる(写真1)。これら釣り客の内、一部の心無い人達が港内のあちらこちらに残していくゴミが以前から問題となっており、また夏場は観光客のものと思われる花火のゴミも多く見られていた。港内にゴミ箱は設置されていたが、ゴミ箱以外の場所への投棄も多く、またゴミ箱にも大量のゴミが集中して残され、分別や処分

が困難となっていた。ゴミ問題に対して今まで取り組まれてきた対策は、以下のとおりである。

(1) 港の清掃活動

能生町漁協組合員全員による年2回の清掃の他、特にゴミの多いところについては、能生町漁協女性部による港内しおかぜ公園付近の定期的な清掃、海洋高校生徒による年2回の清掃および職員による外側防波堤付近の定期的な清掃、能生町漁協カニ組合によるカニゆで場付近の定期的な清掃が行われてきた(写真2)。

(2) 壁画事業

来港した人に、港に対する親しみを感じてもらい、港を綺麗にする意識につながっていく事を期待して、青年部で平成11年に港内の岸壁に地元の伝説「上り岩」を題材とした壁画を描いた。これにより、壁画周辺のゴミは減少した(写真3)。

(3) 啓発活動

直接的なゴミ対策ではないが啓発活動の一環として、平成10年より、能生町の小学5年生を対象に「少年少女 OH!さかな教室」を行っている。ここでは、漁業見学、海や魚に関する講話、魚の手づかみ体験等を通して、海の尊さ、そしてそれを守るのは自分たちであることを学んでもらっている。

これらの活動によって一定の効果は得られたものの、近年の釣りブーム等による来港者の増加に伴いゴミも増え、また壁画に関しても、ゴミを減らす効果が壁画周辺にとどまる等、新たなゴミ対策が必要となっていた。

5. 実践活動状況及び成果

新たなゴミ対策に対して青年部では、「港を作るのは行政に頼らざるを得ないが、港を守っていくのは自分たちの使命である。」というスローガンのもと、検討を重ねた。ポイントは「ゴミの捨ててある場所に自分のゴミを捨てていくことに罪の意識が薄いのでは」ということに絞られ、基本的なことではあるが注意を喚起するため放送で呼びかけを行うというアイデアが生まれた。

(1) 施設設備について

当港には、港内放送設備がなかったため、まずは放送設備設置の検討から始まった。漁港内に緊急放送設備がなく、組合で必要性を感じていたことから基本的な施設整備は漁協にお願いすることとし、決まった時間に自動放送するために必要な機器の導入については青年部で行うことにした(写真4、図4、表1)。

(2) 放送方法について

ア 放送の時間・回数については、市場でのせり時間・港周辺の住民への影響を考慮し、1日3回(9:00・11:30・14:30)とした。

イ 放送内容は、能生町の小学6年生(5校)と海洋高校生に作成を依頼した。これは、著名な人物に依頼するよりも、子供たちの呼びかけの方がインパクトがあり、また、小学5年時に「少年少女 OH!さかな教室」で学んだことを生かして、実際に海を守ることに携わる良い経験となるという考えからである。

(3) 放送開始

平成12年6月、設備設置完了。9月より放送開始。それに伴い、港内のゴミ箱を撤

去した。しかし、設置したスピーカーの出力が小さく港全体をカバーできないことや、小学校との打合せが不十分で放送内容がゴミ対策的でなかったことから十分な成果が得られなかった。

(4) 放送開始1年後

スピーカーの出力不足対策として、放送設備が緊急放送用でもあることから、組合に依頼し大型のスピーカーに取り替えてもらった。また、スピーカー設置場所も10メートルから15メートルに高くすることで、放送内容が港全体で聞こえるようになった(写真5、図5)。また放送内容も、当初の反省を生かして小学校と打ち合わせを重ねた結果、充実した内容となった(図6)。

(5) 現在

事業開始から4年が経過し、つぎのような成果が得られた。

ア ごみ全体量の統計的な記録はないが、目に見えて港内に散乱しているゴミが減った。聞き取り調査における漁港関係者の意見は全般的に、ゴミが減ったという点で一致している。最も釣り人の多い外側の防波堤は、地元の海洋高校に清掃活動を行って戴いているが、その際のゴミの量が大幅に減ったというご意見も戴いている。

イ 組合員全員による港内清掃において、回収したゴミの量の大幅な低減が見られた。(図7)

6. 波及効果

ゴミが減少しただけでなく、下記のとおり外部・内部に波及効果が見られた。

(1) 子供たちの環境美化・自然を守るという意識が向上した。小学生の担任からの意見等を図8に示した。その他に、ある小学校では自主的に港のごみ拾いを実施するなど更に活動を発展させているケースもある。

(2) 漁協青年部内の意識向上にもつながり、イベントに用いる割り箸・使い捨て容器を廃止し、繰り返し使用できる食器を導入するという工夫につながった。

7. 今後の課題や計画と問題点

港内放送によりゴミ散乱の減少、ゴミの量の減少につながったものの皆無となったわけではなく、部分的には依然としてゴミが残されている(写真6)。今後も港内放送は継続して行うが、特にゴミが残されやすい場所は原因を分析し、新たな対策の検討が必要であろう。壁画を作成することにより周辺のゴミが減った経緯があることから、部分的にゴミが集中する場所については個々に目にうったえる対策をとることも効果的と思われる。この課題点を踏まえた中で、行政や地域の協力も得ながら、さらに環境美化活動を充実させていく。

最後に、本活動においてここまでの成果が得られたのは、主旨に賛同し協力をいただいた能生町各小学校、海洋高校をはじめとする関係各位のおかげであり、ここにつつしんで感謝申し上げる。

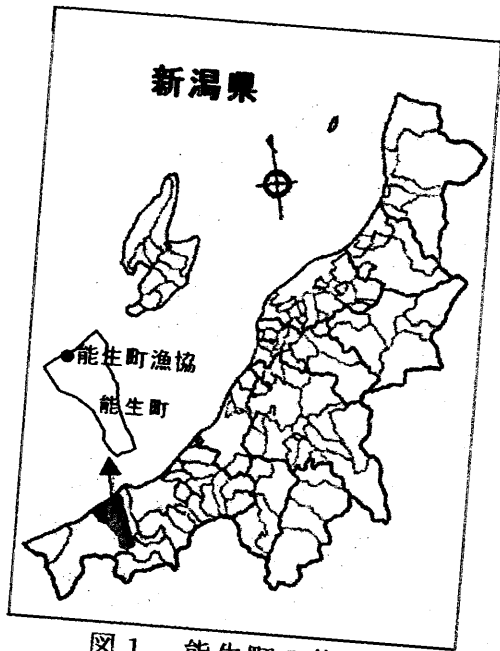


図1 能生町の位置図

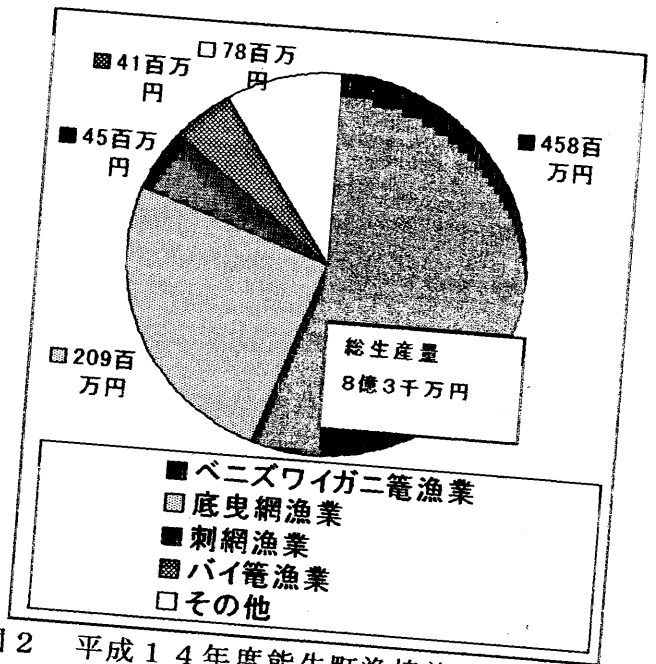


図2 平成14年度能生町漁協漁業生産状況

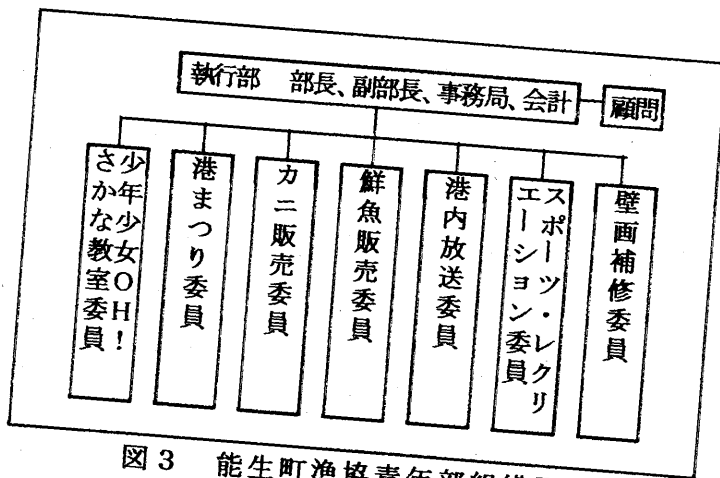


図3 能生町漁協青年部組織図

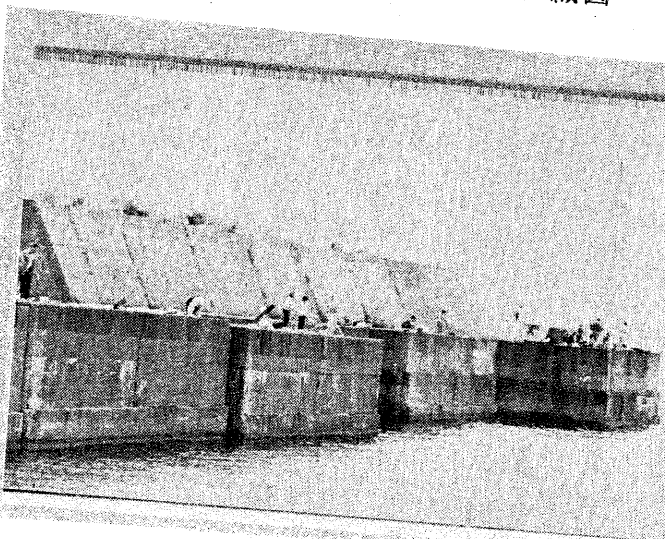


写真1 港内釣り客の様子



写真2 港内清掃活動の様子

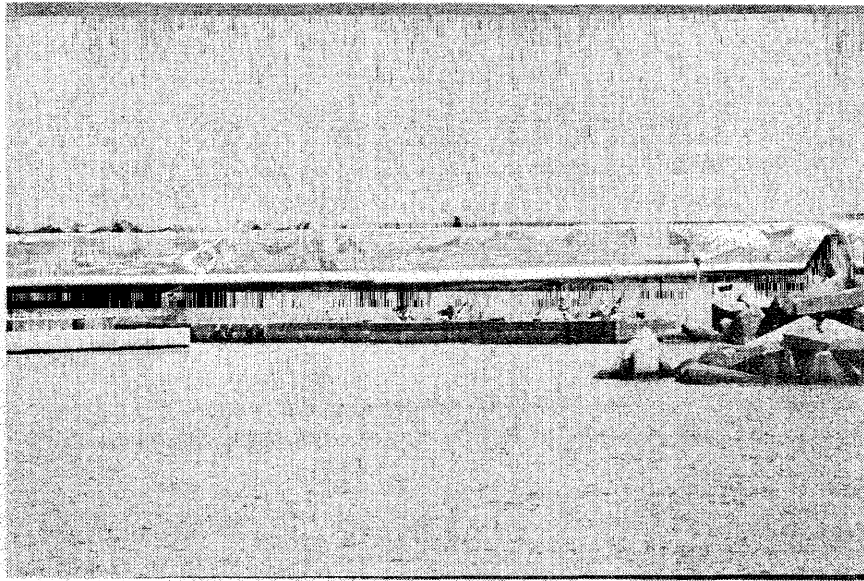


写真3 港内の壁画



写真4 自動放送設備

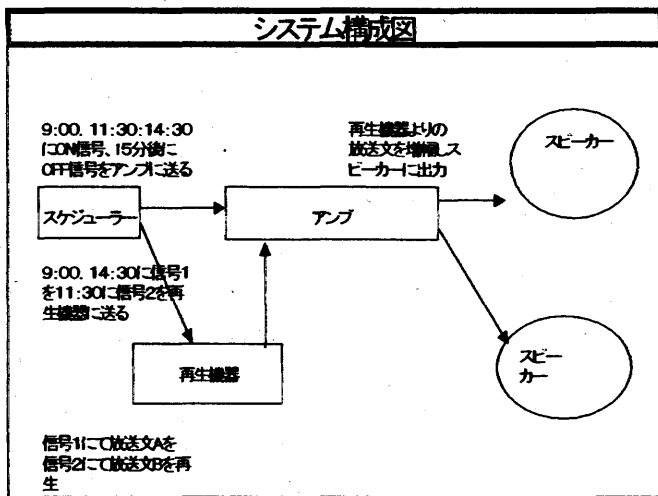


図4 システム構成図

表1 自動放送機器一覧

設備	品名	型式	メーカー	備考
アンプ	パワースタック	WA-H60	パナソニック	出力60W
スピーカー	ドライバユニット ドライバユニットカバー	DH-110 TOA TU-750M TOA UC-200A TOA		入力50W
スケジューラー	プログラムコントローラー	WZ-610	パナソニック	
再生機器	オーディオレコーダー	AR-100	ローランド	



写真5 変更後のスピーカー

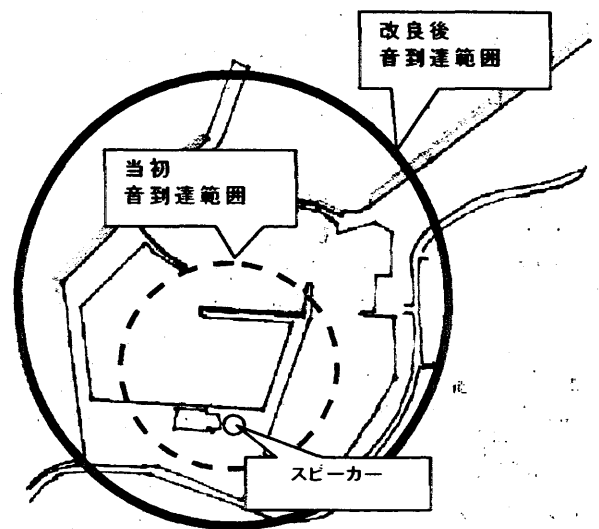


図5 スピーカー音到達範囲

「ようこそ能生町においでくださいました。ぼくたちは(私たちは) 南能生小学校の6年生です。ぼくたちは、1年間能生町のすばらしさを求めて学習してきました。ぼくたちは、この能生町の自然が大好きです。みなさんは、能生町のカニや魚を食べましたか。まだの方はぜひ食べてみてください。新鮮でおいしいですよ。つりを楽しんでいるみなさんにお願ひがあります。どうかゴミをきちんと持ち帰ってください。ゴミを持ち帰らない人がいると、魚たちや漁業組合の方が大変困ります。つり針やゴミ袋が魚をとるための網に絡まったり、ゴミを食べて死んでしまったりする海の生き物もいます。漁港は風が強いので、ナイロン袋などはすぐに飛ばされてしまいます。飛ばないように気をつけてください。ぼくたちは、きれいでたくさん魚がいるこの海を守りたいのです。ぜひ、ゴミの持ち帰りにご協力ください。」

図6 港内放送内容(H15.9.30 現在)

港内清掃実施日	H10.4.21	H15.4.19
時間帯	8:00~10:00	8:00~9:30
参加人数	71名	97名

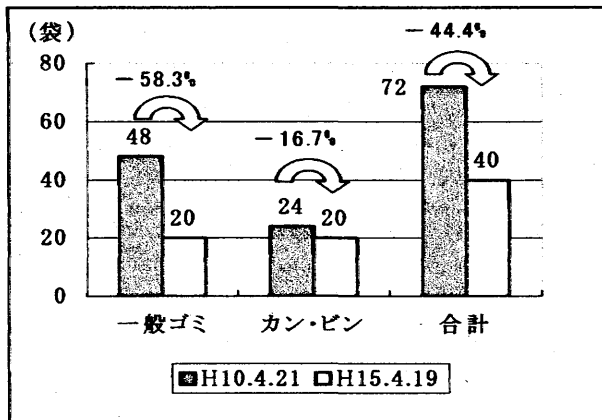


図7 組合員港内清掃実績

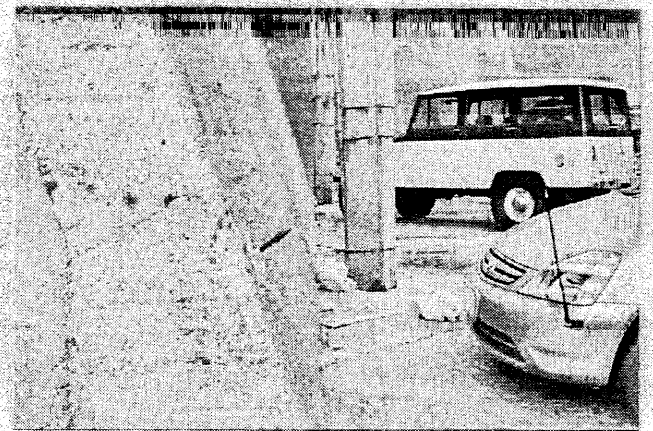


写真6 現在のゴミの様子

A小学校：釣りの好きな生徒が、釣りに行ったときにゴミの処置について特に意識するようになった。例えば、自分ではゴミを捨てるつもりがなくても、風でゴミが飛ばされるようなケースも有り得るが、それを最初から風に飛ばされないように工夫しておくようになった。

B小学校：放送の内容を考えるに当たって、ゴミの状況や被害、マナー等について生徒たちで話し合いをもった。自然を守るという事について真剣に考える機会となり、生徒たちにとってとてもよい経験になった。

C小学校：海の近くに住んではいても、釣りが好きな生徒以外は、海のゴミの状況について具体的には知らないことが多いが、そのような生徒たちが海の状況を知る事ができ、問題意識につながった。

図8 聞き取り調査結果